すてき銭湯ばなし 花の湯

その２

「矢口東小学校へ１年２年と通って、３年目にここへ来て、東調布第一小学校へ転校したんです。だからぼくがここへ来たのが昭和２７年ぐらいかな。」

「子どもの仕事？　ありましたよ。その頃『硫酸ピッチ』っていうのを燃料として燃やしてたんですよね。石油を精製すると最終的に塊りが残るでしょ。それが硫酸ピッチって言うんだよね。今になると産業廃棄物で相当迷惑がられてますけどね。お風呂屋さんはそれを燃(も)してたんです。だけど、『硫酸』ってついてるくらいだから、鉄にいいわけないよね。そんなもん燃してりゃすぐ釜がだめんなっちゃうよね。だから釜の取り替えってのも年中あったね。」
「で、それだけでは燃せないもんだから、いろんなおがくずみたいなものと混ぜながら燃やさなきゃなんないでしょ。そうすると、この辺に印刷会社があったんだ。今もあすこにありますけど。そこでさまざまなボロ切れとかね、紙とかいらないものっていうクズがいっぱい出ますでしょ。そういうものを集めてきちゃあ燃してましたね。」

↑このリヤカーの先代のリヤカーで少年時代のご主人が硫酸ピッチを集めていたのでしょうか・・

「それを子どもがリヤカーで集めるの。持って来てくれるわけないからね。ちょっと先へ行くと三菱のデカい工場があったんですよね。そこへ行くと産業廃棄物のそういうものを向こうから出して来てくれて。いろんなもんがゴッタゴタになってて、燃えるものから燃えないものまで一緒くたになって。そんなもん、出るものは何でも燃してましたよ。」

「近くにほかに野球のバットとかバネとかネジ作ってる工場、何とか発條とかあったし。この辺は工場だらけだったんですよ。何とか製作所っていうところがそこらじゅうにありましたよ。今でもけっこうありますけどね。」

「中学生ぐらいになるとリヤカーを自転車で引っ張って行ってましたね。けっこう働きましたよ。
そのころべつにいやだと思ったこともなかったからね、うちの仕事を手伝うのがね。」
「このリヤカー？このごろはあんまり使わないんだけどね。ぼくが小学生のときに使ってたやつかって？　違うよ、まさか。」

「日曜日になると番台にもね、小学校のころからすわってましたよ。計算できなくたって、女の人が何人もいるから。『いらっしゃいませ』っつってお金をもらって。
だいたいお釣りなく払ってくれたような気がするね。」

「番台で困ったこと？
いや、べつに困ることなんにもなかったですね。
お風呂の熱いとかぬるいとかは番頭さんがやるしね。」

「今のお客さんは、だいたい近所の人たちかな。
大通りに面してるお風呂屋さんてのは意外と
少ないんです。だから目立ちにくくて、煙突がそこに
見えてても、どこかな、なんて探しちゃうとかありますね。
ガス化されたところはもう煙突がないんです。」

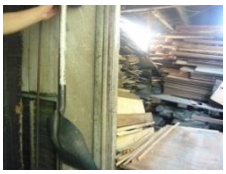
「この間の地震（東日本大震災）で煙突が倒れたところがあるから、うちも半分切っちゃおうかな、なんていうお風呂屋さんもありますよ。」

花の湯さん　ところどころ　パート３

ロビーの壁にかかる、織物でできた大きな恵比寿さんの絵。

「弟が趣味で作って贈ってくれたの。」

「これが製材機なんだけど、木が載っかっちゃって使えないんだ。」



「廃材がいっぱいになっちゃって、こないだなんか注意されちゃってね。区役所の人に（笑）。道にはみ出してるって。」

「うちのうらは六郷用水で、鯉が泳いでるよ。うちの庭みたいでしょ。昔は一面畑ばっかりだったんですよ。だからこれは水路だね。」

「お風呂屋さんの煙突がだいたい２０数メートルあるけど、この辺の５階建てなんかになると、煙突より高くなっちゃうんだ。
あっちのほうに１０何階建てなんか建ってます。紙を燃やすと灰が煙突から飛んじゃうんで紙は燃やさないんですよ。」

「標準的な１日っつったって・・ご覧のとおりうちは薪燃やしてるんでね、薪が来たときと来ないときじゃやっぱり違いますからね。」

「薪はだれかさんが何曜日と何曜日に持って来ますって、そういうことがないから。うちの場合は、余ったもんが出たら、勝手に持ってくるんだから。特定の業者さんにお願いしてるわけじゃないの。来る人はほとんど初めてじゃない人ばっかりだけどね。薪が来たときには、その薪片付けってのがあるから。来ないときはそれがないから。」

「来たときはそれを片付けるのにけっこう時間かかったりしますね。いつ持ってくるかもわかんないし、そうでしょ。」
「営業しながらやるかって？もちろんそうですよ。来ればそれを片付けなきゃいけないし。見てわかるとおり、こんなでかいまま燃せるわけないんだから、燃せる大きさに切んなきゃいけないわけで。製材の機械もあるんだけど、あんなに積まれちゃうともう製材の機械も使えないから、チェーンソーで切ったりなんかしてね。それがなければ午前中はだいたい基本的にはなんにもしませんよ。」

「うちはおやじが前の人から居抜きで引き継いだものだから、いつからここにお風呂屋があったのか、なんで花の湯って言うのか、わかんないねー。」

＊石川さんより「古いことなので記憶違いがあるかもしれません。」
（聞き書き・大田区民の会　嶋峰みゆき）